

講義コード	519400301									
講義名	教育実習指導 AB									
(副題)										
開講責任部署	幼児教育科（短大）									
講義開講時期	前期									
基準単位数	1									
時間	0.00									
代表曜日	月曜日									
代表時限	4 時限									
科目分類名	専門科目									
科目分野名	教職に関する科目									
対象学部・年次	短期大学部・1～2年									
必須/選択	選択									
担当教員										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専任教員</td> <td>山本 詩織</td> <td>指定なし</td> </tr> <tr> <td>専任教員</td> <td>教務委員会（短大）</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>		職種	氏名	所属	専任教員	山本 詩織	指定なし	専任教員	教務委員会（短大）	指定なし
職種	氏名	所属								
専任教員	山本 詩織	指定なし								
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし								

授業の概要

授業の概要

幼稚園実習の前に、幼稚園教育の意義、幼稚園の役割と機能、実習の目的、実習への心構え、実習日誌の記入の仕方等の、実習を行う上で求められる基本的な知識および技能を学ぶ。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と教科書、配布印刷物を活用する。

②授業形態

基本的な知識の教授は講義形式をとる。適宜、2～3人でグループワークを行う。

③アクティブラーニング

グループワークやディスカッションなどを適宜行う。主体的な参加により学習が成立するため、積極的に授業に取り組んでほしい。

また、理解度の確認のために振り返りや課題の提出、小テストを行う。

④課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして提出課題や小テストを返却した際に解説を行う。

授業の到達目標及びテーマ

本授業は「幼稚園実習とは何かを理解する」と「日誌の書き方を理解し、実践できるようになる」という2点を目標としている。この2点を基に、幼稚園での教育実習の意義を踏まえて実習の内容及び方法の基礎を理解することを最終的な到達目標とする。

本授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連づけて理解している」と「3. 情報や知識を複眼的、論理的に分析し、自分の意見を口頭や文章で的確に表現できるコミュニケーション・スキルを身につけている」及び「9. 理論（日々の学び）と実践（各種実習）を往還する省察と改善の態度を身に付けている」を達成するための授業である。

授業計画表

回	項目
第1回	イントロダクション——実習で学ぶべきことと経験すべきこと、実習希望調査

第2回	幼稚園教育実習Iへ向けて短大生活で心がけてほしいこと
第3回	幼稚園とはどのようなところか——幼稚園という教育制度を知る
第4回	幼稚園における保育の実際——園での生活の一日の流れ
第5回	幼稚園教育要領からみる幼稚園
第6回	作新短大の「幼稚園実習I」で学ぶこと——養成校独自のルールについて
第7回	幼稚園実習への心構え——社会人としての一步を踏み出すために
第8回	小テスト
第9回	幼稚園実習日誌の書き方①——実習の目標を立てる
第10回	幼稚園実習日誌の書き方②——事前オリエンテーションで学ぶこと
第11回	幼稚園実習日誌の書き方④——保育の「反省・考察」の仕方
第12回	幼稚園実習日誌の書き方⑤——文章表現の注意点
第13回	幼稚園実習日誌の書き方⑥——日誌のまとめと提出
第14回	小テスト
第15回	第14回：実習前の諸注意事項

授業時間外の学修

日頃から幼稚園に関わる各種報道について関心を持って触れていてほしい。また、教科書（『教育・保育実習テキストブック』建帛社、2020年および『実践につながる新しい教育・保育実習』ミネルヴァ書房、2022年）と参考図書の『幼稚園教育要領解説』は、授業時間以外にもしっかりと目を通してほしい。（各回の予習としておおよそ15分はかかると想定される。）また、授業内容を修得するためには日々の振り返りが必須となる。配布資料やテキストの該当ページ、板書内容を必ず見直すこと。（各回の復習としておおよそ30分はかかると想定される。）

実務経験の有無

--

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	◎	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
表現	授業内容を100%理解しており、実習に関する書類作成において実情に応じた臨機応変な対応が出来、表現	授業内容をほぼ95%程度理解しており、実習に関する書類作成において必要な表	授業内容をほぼ70%程度理解しており、実習に関する書類作成において必要な表	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提

カ	力がより豊かに身についていることが認められる	現力が身についていることが認められる	現力がやや身についていることが認められる	供等の支援を行っている
実習への準備状況	授業内容を100%理解しており、実習に関して実情に応じた臨機応変な対応が出来る、純分に準備が整っていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、実習に関する準備が整っていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、実習に関する準備がやや整っていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	0%	
小テスト等	70%	
成果発表	0%	
授業への貢献度	10%	
レポート	20%	
その他	0%	

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） コメントシートの活用	PBL(課題解決型授業)	授業前レポート（予習）

小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用	授業後レポート
教科書	
<p>基本的には授業内で配布するプリントを用いる。ただし、次の文献を適宜利用するので必ず購入すること。</p> <p>『教育・保育実習テキストブック』建帛社、2020年 『実践につながる新しい教育・保育実習』ミネルヴァ書房、2022年</p>	
参考書	
<p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2017年 小櫃智子編『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社、2013年 徳永満理編著『幼稚園・保育園 実習まるごとおたすけガイド』チャイルド本社、2015年 阿部恵・鈴木みゆき編『教育・保育実習安心ガイド』ひかりのくに、2002年</p>	
SDGsとの関連	
4. 質の高い教育をみんなに	
特記事項等	
<p>①実務経験のある教員 該当なし</p> <p>②科目のナンバリング SPR1101</p> <p>③オンライン授業の実施方法 Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。</p> <p>④その他の特記事項 本授業は幼稚園実習Iを行う上で必ず修得していなければならないものである。</p>	
研究室（訪問先等）	
<p>中央研究棟2階 228研究室 出講日は、前期が月曜日・金曜日、後期が月曜日・火曜日・水曜日です。質問等がある方は直接研究室を訪ねてください。</p>	
電話番号	
028-667-7111（代表）	
授業用E-mail	
yamamoto@sakushin-u.ac.jp	
成績評価法	
<p>①試験 0%</p> <p>②レポート 90%（各種提出課題、小テスト）</p> <p>③平常点 10%（授業態度など）</p> <p>④その他 0%</p>	